

ひとなる

白川を愛し、たくましく心のあったかい子を育む美濃白川

鍛えの場・芽生えを培う場・やすらぎの場・広がりの場

白川町食に関する教育講演会

『弁当の日』がやってきた

～ 家族・学校・地域の活性化 ～



講師 竹下和男

子どもが作る“弁当の日”提唱者。小学校、中学校教員、教育行政職を経て、2000年度より香川県綾南町立滝宮小学校時代に弁当の日を始める。03年度より国分寺町立国分寺中学校校長、08年度より綾川町立綾上中学校校長、11年度よりフリーで執筆・講演活動始める。これまでの講演は、47都道府県にて通算で2500回を突破。“弁当の日”実践校は2022年度末47都道府県で約2400校を超える。



『弁当の日』が学校と家庭と地域をつなぎます!!

近年、子どもたちの「食」をめぐるのは、発育・発達の重要な時期にありながら、栄養素摂取の偏り、朝食の欠食、小児期における肥満の増加、思春期におけるやせの増加など、問題は多様化、深刻化し、生涯にわたる健康への影響が懸念されています。いつでもどこでも好きなものが食べられる環境にあるからこそ、児童生徒が生涯を通して心身ともに健康に過ごすための望ましい食生活を実践する必要性が叫ばれています。また、毎年行われている全国学力・学習状況調査における児童生徒の質問紙調査には「朝食の摂食」に関する項目があるように、食と学力の関係についても示されています。（朝食の摂取率の高さと、学力の高さには相関があるというデータがあります。）

今年度の調査において、白川町では、「年齢が上がるにつれて朝食を食べないで登校する」、「朝食を独りもしくは子どもだけで食べている」という実態があります。食卓に集まらず、好きな場所で食事をする。好きなものを好きなときに、好きなところで食べる。孤食や外食に頼る食生活が続いていくとどうなるのでしょうか。子どもたちが経験したことは、その子たちが大人になり、親になったときに繰り返されることになる可能性があります。そこで、保育園・学校、家庭、地域が連携し、共通して取り組める食教育を実践することによって、単に子どもたちの食生活の問題を解決するだけでなく、家庭の団らんを確保し、地域の絆を強め、心身ともに健康な子どもを育成したいと願い、10月3日（火）に子どもが作る「弁当の日」の提唱者である竹下和男先生をお招きし、黒川小学校にて講演会を開催しました。



小・中学校で「弁当の日」と聞くと、運動会や遠足といった特別な日に、保護者に作ってもらう弁当を思い浮かべるのではないのでしょうか。竹下先生は、献立・買い出し・調理・弁当箱づめ・片付けといった弁当づくりに関するすべてを子どもだけで取り組むことを推奨しています。白川町内でもすでにこの取り組みを行っているところがありますが、今回の講演会を通して、家族が喜ぶ姿を想像しながら弁当づくりに取り組むことが、豊かに生きていくために欠かせない力を育むことにつながることを学びました。講演会後には、早速、家族のために食事づくりをしたと嬉しい報告がありました。

小学生も中学生も、竹下先生の話を食べるように聞きました。今の自分にできることは何かを考えるだけでなく、早速行動に移すことができた子がたくさんいます。

黒川中学校生徒会長 楢怜佳さんが、代表でお礼の言葉を述べました。お話を聞いて学んだことを生かして、生活を豊かにしたいという強い思いが伝わってきました。

【講演会に参加した方の感想より】

私はふだん料理をしません。いつも母が作ってくれたものを食べていました。しかし、出されたものを食べるという事が当たり前ではないことに気づかされました。講演を聞いた日の夜、自分から夕飯を作ってみました。父も母も「おいしいよ」と喜んでくれました。やってよかったとあたたかい気持ちで満たされました。（中学3年生）

「食」は人の心を育てる。「人と人をつなぐ」本当に「食」という事は大切なことだと改めて実感しました。また、自分を反省する点もたくさん見つかりました。子どもと一緒に何かをするということをおぼえていたような…。これからは、子どもと一緒に台所に立ちたいです。（保護者）



実り多き
夏休み!!

見つけた!! 夏の宝物



夏休み期間を利用して、子どもたちが研究や作品づくりに力を注ぎました。疑問に思っていることを解決する、ふだんできないことにじっくり時間をかける、新しいことに挑戦するなど、それぞれが目的をもって取り組みました。これまで学校で学習してきたことを生かし本やインターネットを使って調べたり、試行錯誤しながら実験や検証を繰り返したり、保護者の協力を得ることで難易度が高いことに取り組んだり、一生懸命取り組んだその成果は、まさに「夏の宝物」です。



自分の体よりも大きな恐竜を作成しました。今にも動き出しそうで迫力満点です。



カルタ遊びをしながら日本全国47都道府県の形や名産品について詳しくなれる作品です。



夏休みが明け、各学校では夏季作品展が開催されました。また、各学級で夏の成果の発表会も行われました。作品展を見学をする子どもたちから「来年の夏、私はこれに挑戦しよう。」といった声も聞こえてきました。ここ数年中止となっていました加茂郡小中学校・科学作品展・社会科作品展・夏季作品展も4年ぶりに行われ、川辺町の中央公民館には、子どもたちのがんばりを一目見ようとたくさんの方が来場していました。審査会では、白川町の児童生徒の作品が数多く入賞しました。

令和5年度 加茂郡小中学校 科学作品展 白川町入賞者一覧

区分	賞	学年	氏名	学校名	題目
小学校の部	銀賞	3	林 伊武季	蘇原小	おいしいお米になあーれ! 元気に育て!! ほくのタイ田んぼ
	銀賞	6	齋藤 善暉	白川小	ほくの石発電研究所
中学校の部	金賞	3	藤井 創	黒川中	ツバメの巣の謎にせまる

令和5年度 加茂郡小中学校 読書感想文コンクール 白川町入賞者一覧

区分	賞	学年	氏名	学校名	題目
低学年	自由図書 準特選	2	小池 星歌	蘇原小	あいしてくれてありがとう
高学年	課題図書 特選	6	松下 龍騎	白川小	あたりまえではないこと
	自由図書 準特選	6	齋藤 善暉	白川小	「経験」から得る学びの楽しさ
中学校	課題図書 特選	2	安江奈々子	白川中	「鮮やかな日常」
	自由図書 準特選	3	藤井 創	黒川中	友だちづくり

読んでほしいな「わたしのおすすめの本」

美濃白川読書サミット実行委員会では、白川町の読書活動を推進するために、これまで9回にわたり美濃白川読書サミットを開催してきました。町内の小中学生をはじめ、大人から子どもまで幅広い年齢層の方に参加いただき、「読書のまち 美濃白川」を象徴する恒例行事となっていました。しかし、新型コロナウイルスの影響により皆が一堂に会することを令和2年度より中止としておりました。

皆が集まって読書の魅力を語り合うことができなくても、読書を通じて「感動したこと」、「役に立ったこと」、「笑顔になれたこと」などの感動を共有したいと考え、昨年度より、小学生・中学生を対象に「わたしのおすすめの本コンクール」を開催しております。今年度は小中学校より、206作品の応募があり、どの作品からも読書の魅力が伝わってきました。厳正な審査の結果、以下の皆さんが最優秀賞に選ばれました。最優秀賞ならびに優秀賞に選ばれた作品については、今後、各校の図書館にて紹介されます。「わたしのおすすめの本」をぜひ読んでみてください。

令和5年度 わたしのおすすめの本コンクール 入賞者一覧

<最優秀賞>

<優秀賞>



	学年	氏名	学校名
小学校	1年	中山 陽央	黒川小
	2年	安江 善司	黒川小
	3年	児嶋 旭	黒川小
	4年	瀨瀬 凜	黒川小
	5年	瀨瀬 明	黒川小
	6年	安江 香穂	佐見小
中学校	1年	塩月 櫻子	黒川中
	2年	有田 仁那	黒川中
	3年	古田 結愛	黒川中

	学年	氏名	学校名	氏名	学校名
小学校	1年	児嶋 夏	黒川小	川上 ひより	黒川小
	2年	藤井 星桃	黒川小	飯盛 葉琉	佐見小
	3年	安江 飛南	黒川小	中島 佑果	佐見小
	4年	佐伯 実優	黒川小	安江 慶悟	佐見小
	5年	宮田 楓莉	蘇原小	瀨瀬 彩葉	黒川小
	6年	小池 耀月	黒川小	服部 すびあ	佐見小
中学校	1年	安江 晴香	白川中	山口 カエラ	白川中
	2年	新井 泉之助	黒川中	竹川 明日佳	黒川中
	3年	小池 優月	白川中	藤井 ひなた	黒川中